ケアポート板橋　特養3階

症　例　概　要　　70代　女性

慢性腎臓病/高尿酸血症/高血圧症/鉄欠乏性貧血/多発性胃潰瘍/2型糖尿病

愛猫と共に自由気ままな独居にて生活されていたものの、自宅で倒れ腎機能憎悪の診断にて入院となる。在宅復帰は難しく、R7.7月にケアポート板橋入所。「食」に対しての執着が強く、全般的に制限のある施設生活へ不満や不信感を持たれておりました。「腎機能の悪化著明」にて、施設初めてのご本人とのICを実施。透析は希望されずケアポートでの看取りをご希望されたため、本人のご意向を最大限に叶えた看取り前提での生活支援を、チームで実践できた症例。

内　　容

氏は20年程前に生体腎移植を行っており、透析は離脱。免疫抑制剤の内服は継続となっていたものの日常生活には支障が無く、愛猫と共に飲酒を嗜まれ、自由気ままな独居生活をされていました。見守り対象者として包括が介入しておりましたが、自宅で体動困難となり入院。区分変更にて要介護4の状況となり、在宅復帰は難しく施設入所となりました。

入所当初は、「ここはいい人ばかりね」と施設生活にも慣れ、笑顔をある生活をされていました。ティルト式車いすの生活でしたが、「歩きたい」という希望に対し、OT評価・訓練メニューの考案・実施にて、歩行器を使用した歩行訓練ができるまでに歩行能力は回復。また自力にて食事摂取及び口腔ケアができる環境を整え、実施できる様になりました。入所前に飼っていた愛猫も常に心配しており、「今は保護施設にいるけど、逢いたいなぁ」と、想い出話しを職員へ、遠い目をしながらよく話して下さいました。

疾患による食事制限があることに対し、次第に不満は募ってきます。「味噌汁が少ない」から始まり、テレビや広告を見ながら、「この中華が食べたい!」や様々な具体的な嗜好の要望が強く聞かれる様になりました。慢性腎不全に加え、DMにより、施設の食事以外は身体に影響がある為、ご遠慮して頂きたい旨を説明しておりましたが、携帯電話で友人に連絡され、差し入れにお菓子等を希望されることが頻繁となり、「おやつも部屋から持ってっちゃって。私はあなた達を信用できない」と不信感を露わにされる様子がみられる様になりました。

入所時検診の結果は、「腎機能悪化著明」との診断。身寄りもなく、ご本人自身である程度の理解は可能である為、本人とのICを施設で初めて実施しました。主治医より病状の説明と治療法について説明をおこなうと、「透析はしたくない。人工呼吸器もしない。ここで死にたい」とご意向をされる。そのご意向を受け、その場で多職種協働のカンファを開催。身体に無理のない範囲で、ご本人の意向に寄り添った援助をするという方針にて即日行動に移します。

食欲は低下されておりましたがご本人の体調に合わせ、管理栄養士と看護が連携し大好きな醤油ラーメンと黒酢飲料の提供。念願だったお寿司は、栄養課職員が寿司屋カウンターにテーブルを見立て、目の前で握りたてのお寿司を提供してくれました。テイクアウトのピザ、コーラやポテトチップも満面な笑顔で「これこれ」と完食されました。また、常に心配されていた愛猫にどうしても再会して欲しく、保護施設へ協力依頼。なんと施設内で再会する事ができました。「ココちゃんごめんね。逢いたかったよ」と涙ながらに仰り、何度も抱きしめ、別れ際には保護施設の方に「この子は一緒にいると幸せな気持ちにさせてくれます。どうか今後ともよろしくお願いいたします」と最期の別れであることが分かっているような言葉をかけておられました。その後徐々に食事量も低下し5か月という短期間での関わりでしたが、最期まで自分らしく、安らかなお顔でお見送りすることができました。

【多職種連携】

介護福祉士・看護師・作業療法士・管理栄養士・栄養士・歯科・歯科衛生士・介護支援専門員・相談員